

【C年】

復活節第四主日

永遠の契約の血によってよい羊飼いの主イエス・キリストを死人のうちからよみがえらせられた平和の神よ、どうか、わたしたちをみ旨にかなう者とし、み前に喜ばれるすべての良業を行わせてくださいますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

聖書

朗読者 「聖書は使徒言行録第十三章十五節から」

15 律法と預言者の書が朗読された後、会堂長たちが人をよこして、「兄弟たち、何か会衆のために励ましのお言葉があれば、話してください」と言わせた。16 そこで、パウロは立ち上がり、手で人々を制して言った。「イスラエルの人

たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。

26 兄弟たち、アブラハムの子孫の方々、ならびにあなたがたの中にいて神を畏れる人たち、この救いの言葉はわたしたちに送られました。27 エルサレムに住む人々やその指導者たちは、イエスを認めず、また、安息日ごとに読まれる預言者の言葉を理解せず、イエスを罪に定めることによって、その言葉を実現させたのです。28 そして、死に当たる理由は何も見いだせなかったのに、イエスを死刑にするようにとピラトに求めました。29 こうして、イエスについて書かれています。30 がすべて実現した後、人々はイエスを木から降ろし、墓に葬りました。31 しかし、神はイエスを死者の中から復活させてくださったのです。32 このイエスは、御自分と一緒になり、ガリラヤからエルサレムに上った人々と、幾日にもわたって姿を現されました。その人たちは、今、民に対してイエスの証人となっています。33 わたしたちも、先祖に与えられた約束について、あなたがたに福音を告げ知らせています。34 つまり、神はイエスを復活させて、わたしたち子孫のためにその約束を果たしてくださいましたのです。それは詩編の第二編にも、

『あなたはわたしの子、

わたしは今日あなたを産んだ』

と書いてあるとおりです。

34 また、イエスを死者の中から復活させ、もはや朽ち果てることのないようになされたことについては、

『わたしは、ダビデに約束した

聖なる、確かな祝福をあなたたちに与える』
と言っておられます。35 ですから、ほかの個所にも、

『あなたは、あなたの聖なる者を

朽ち果てるままにしてはおかれぬ』

と言われています。36 ダビデは、彼の時代に神の計画に仕えた後、眠りについて、祖先の列に加えられ、朽ち果てました。37 しかし、神が復活させたこの方は、朽ち果てることになかったのです。38 だから、兄弟たち、知っていたきたい。この方による罪の赦しが告げ知らされ、また、あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、39 信じる者は皆、この方によって義とされるのです。

朗読者

「聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一〇〇編

1 全地よ、主に向かって喜びの声を上げ＝ 喜んで主に

仕え、歌いながらみ前に進め

2 主こそ神であると知れ、神はわたしたちを造られた＝

わたしたちは神のもの、その民、その牧場の羊

3 感謝して門をくぐり、賛美して中庭に入れ＝ 神に感謝
を献げ、み名をたたえよう

4 主は恵み深く、慈しみは限りなく＝ そのまことは
世々に及ぶ

使徒書

朗読者 「使徒書はヨハネの黙示録第七章九節から」

9 この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、10 大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」11 また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、12 こう言った。

「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、

誉れ、力、威力が、

世々限りなくわたしたちの神にありますように、

アーメン。」

13 すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」14 そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存

じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。」

15 それゆえ、彼らは神の玉座の前において、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、

この者たちの上に幕屋を張る。

16 彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、

太陽も、どのような暑さも、

彼らを襲うことはない。

17 玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、

命の水の泉へ導き、

神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

(ここ)で聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第十章二十二節以下に記された主イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

22 そのころ、エルサレムで神殿奉献記念祭が行われた。冬であった。 23 イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊を歩いておられた。 24 すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい。」 25 イエスは答

えられた。「わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。 26 しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからである。 27 わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。 28

わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。 29 わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。 30 わたしと父とは一つである。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」